南の光明

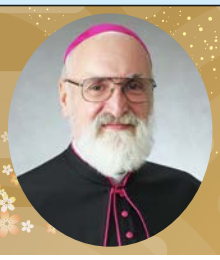
The Catholic Diocese of Naha Newsletter

今年の教区の目標

われら皆　和解の器
平和の担い手

〒902-0067　那覇市安里3-7-2
カトリック那覇教区本部
TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474
発行人　W.F.バーント司教　1部40円
http://www.naha.catholic.jp/

(1) 2023年1月1日（毎月1日発行）　カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ　第770号（1月号）



2023年頭司教挨拶

母のように

カトリック那覇教区長　ウェイン・F・バーント司教

あけましておめでとうございます。

新たな年を迎え、新たな歩みをはじめるにあたって、ひとつの地球上で同じ時を共有するすべてのものに、心からの敬愛と抱擁の挨拶を送ります。すべての被造物は、存在させられて在り、互いに支え合って同じこの時を共有しているからです。新たな時のはじまりに、原初の時のはじまりを思い起こします。神の創造のわざに何ひとつ不要なものはなく、何ひとつ排除すべきものはないはずです。すべての存在に感謝と敬意を表しましょう。

一年の始まりの日、教会は救い主イエスの母を「神の母」として祝います。それは、すべてを包み抱く神の母性を体現する母マリアを新たな時のはじまりに位置付け、いつも新しい命＝存在のはじまりには、母性が働くことを指し示しているかのようです。

神の母聖マリアの姿を聖書にもとづいて振り返るとその意味がより一層際立ちます。おとめマリアは、受胎告知において聖書に初登場します。その場面は、非常に美しいイメージで描かれ伝わってきましたが、その現実的な意味は過酷そのものでした。客観的には、婚約中に懐妊するという衝撃的な出来事だったのです。また、常に暖かな美しさにあふれる出来事として祝われるクリスマスも、旅の途上のしかも、家畜小屋での出産という、語るも辛い場面でもあったはずです。さらにその直後に赤子のいのちを狙われ、その危機を回避するために乳飲み子を抱えた異国への逃避行となります。こうして、無事に何とか育て上げた少年期の我が子からは、「どうしてわたしを捜したのですか。わたしが父の家にいるのは当たり前だということを、知らなかったのですか」（ルカ二・49）となじられました。また、イエスが長じてからは、困っている婚礼の場を助けたい一心で息子に助けを請うた時も「婦人よ、わたしとどんなかかわりがあるのです。わたしの時はまだ来ていません」（ヨハネ二・4）とはっきり断られてしまいます。さらに、方々で活躍する息子に一目会いたいと思って訪ねても、「わたしの母、わたしの兄弟とは、神の言葉を聞いて行う人たちのことである」（ルカ八・21）とつれない返事を返されます。このように母マリアが体験した現実は、辛く、悲しく、傷つくことの連続でもあったはずです。しかし、それでも母マリアは、そのような理不尽に思える時にこそ、「これらのことをみな、心に留めて思いめぐらし」（ルカ二・51）、その母性を全開にします。どんなに冷たくされても決して離れず、どんなに突き放されても信じて頼り、どんなに辛くても傍に立って、わが子に寄り添いました。こうして、最後に訪れた最大の悲劇は、愛するわが子の惨たらしい磔刑死でした。その時母マリアは、狂乱のうちに泣き崩れるのではなく、十字架上のわが子を仰ぎ見『立って』いたのです（ヨハネ一九・25）。この痛ましい現実をあの「思いめぐらし」によって、愛するわが子の成し遂げる神の救いのわざと受けとめ、自分自身をわが子と共に磔にしたのです。

こうして、母マリアは神の母性を体現しました。わたしたちの理不尽な態度にも、変わることなく注がれる神様の愛情をあらわしたのです。歴史の原初である神の愛の溢れ出としての創造のわざは、すべてを生み出す母としての神の姿を伝えています。『神の母聖マリア』の称号に何を感じ取り、その呼びかけにどのように応えましょうか。

新しい年のはじまりに、時のはじまりにあった神の愛の溢れ出を感じつつ、いのちと存在が脅かされ、平和が乱されているいまこそ、もっとも必要とされる静かで優しい母性の発露を祈り求めましょう。そして、この新たな年をはじめるにあたり、「われら皆　和解の器　平和の担い手」を心に刻み、みずからの和解と身近な人との和睦、それによって地域社会と世界の平和へとその輪（和）を広げて参りましょう。

二〇二三年正月

2023　New Year's Message from Bishop Wayne

By: Bp. Wayne Francis Berndt

Dear Brothers and Sisters of Naha Diocese,

Happy New Year！ Manigong Bagong Taon! Chúc mừng năm mới!
I hope that all of you will have a wonderful year in 2023. Know that I will be keeping you and your families in my prayers throughout the coming year. Be sure to also keep me and the Diocese of Naha in your prayers as well.

Every year we choose a theme for the new year. In English, this year's theme is: "We are Vessels of Reconciliation, and Bearers of Peace." In the Bible, in both the Old and the New Testament, the word 'vessel' is often used. It often refers to something that we have received from God. Our soul can be thought of as a vessel that God can fill with heavenly gifts that are given to us to be used for others. For example, in the Acts of the Apostles 9:15, reference is made to the fact that St. Paul has become the, 'chosen vessel' of God for the salvation of the Gentiles. In the Second Letter of Timothy 2:20-21, the passage refers to the fact that we all have a 'vessel' within our hearts to hold the special spiritual utensils that God has given us to do 'every good work'. And finally, there is a passage in Romans 9:24 that refers to each of us as being called by God to become 'vessels of mercy'. Part of our aim this year in Naha Diocese is to become God's vessels of reconciliation in our homes, in our parishes, at our schools and at the places where we work.

The second part of the theme for this year is that we should become, "Bearers of Peace". There are many places in the Bible that refer to peace. For example, "If it is possible, so far as it depends on you, live peaceably with everyone" (Romans 12:18). But the passage that I like the most is about Jesus sending out his disciples two by two to preach in the villages. He said, "Now whatever city or town you enter, inquire who in it is worthy, and stay there till you go out. And when you go into a household…let your peace come upon it" (Matthew 10:11-14). There is also another passage where Jesus promises peace to his disciples before he died. "Peace, I leave with you; my peace I give to you" (John 14:27). There is so much strife and fighting among people and among nations in the world. This year let us imitate Jesus by offering everyone that we meet the gift of peace.

As Catholics we have received many spiritual gifts from God to be used for our neighbors and friends. We get these gifts from God through our participation at Mass, from receiving the Sacraments and from listening to the Word of God. God wants us to share these gifts with everyone that we encounter in our life. While there are many spiritual gifts, we want to especially put emphasis this year on reconciliation and peace.

As we contemplate our diocesan aim for this year, let us not forget our brothers and sisters in Myanmar, Ukraine and in different parts of the world that need reconciliation and peace. Let us continue to pray for them too.

God Bless you and may you have a wonderful New Year!

Bishop Wayne

ニヌファ王

「O-KI-NA-WA」の意味は ナザレのキリストは私たちの王様

ボスコ・テイン神父
首里教会　主任司祭

親愛なる皆様、
あけましておめでとうございます。

今年、私は首里教会の標語として、「あなたの信仰があなたを救った」（マタイ九・22）を選んで短冊に書きました。今年が皆様にとって、聖霊の恵みに満たされた一年になりますように。信仰深く過ごす一年になりますように。

さて、イエスは言われました。「はっきり言っておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」（ルカ二三，43）。このイエスの言葉を通して、わたしたちはイエスが天国の王だと確信します。なぜなら、王であるからこそ十字架にかけられていた犯罪人の一人にこの言葉が言えたのです。

十字架の上に「INRI」と書かれた札があります。「INRI」とはどういう意味でしょうか。「I」はイエスで、「N」はナザレです。「R」はRex、王様で、「I」はユダヤという意味です。それで、「INRI」というのは「ナザレのイエス、ユダヤの王」（ヨハネ一九・19）ということになります。この文字をポンテイオ・ピラトは書いたのです。しかし、イエスはユダヤではなく、天の国の王です。なぜなら、イエスが言われました。「わたしの国は、この世には属していない」（ヨハネ一八・36）と。実に、イエスは愛の王です。救いの王です。また、平和の王です。そして、永遠の命の王なのです。カテキズムによると、「キリストは永遠の命の主です。人間の行為と心とを最終的に裁く至上権は、世のあがない主であるキリストに属します。キリストはこの権利を十字架によってかちとられました」とあります。しかも、御父は、「裁きはいっさい子に任せておられる」のです。

ところで、「御子は裁くためにではなく、救うため、ご自分のうちにあるいのちを与えるために来られました。この命の恵みを拒絶することで、おのおのはすでに、自分自身を裁き、その行いに従って報いを受けています。そのうえ、愛の霊を拒否して、自らを永遠にのろわれた者にすることさえできるのです」（カテキズム679）。

私たちは洗礼を受けた時に、王としての職務に参加しています。教会憲章により、「キリストはこの権能を弟子たちに授けたが、それは彼らも王的自由の中に確立されて自己放棄と聖なる生活をもって、自分の中にある罪の支配に打ち勝ち、さらに、人々の中においてもキリストに奉仕する謙虚と忍耐とによって、王のもとへ自分の兄弟を導くためである。この王に仕えることは支配することである。事実、主は自分の国を信徒を通しても、広めることを望んでいる。主の国は真理と生命の国、聖性と恩恵の国、義と愛と平和の国」（教会憲章36）です。

だから、私たちはこの世でその王としての職務に参加して生きていきましょう。たとえば、祈る時、祈りの王になり、平和を実現する時、平和の王になります。正しいことする時、正しいことの王になり、良いことを行う時、良いことの王になります。聖なることに参加する時、聖なることの王になり、愛するとき、愛の王になります。公平を行う時、公平の王になる。まして、病気を我慢して、心から受け入れる時、病気の王になります。そうすれば、今日ではなく、将来、亡くなったとき、王であるキリストと一緒に楽園にいることになるのです。

では、沖縄の信者である皆さん、次の事を覚えておいてください。「沖縄」は海のなわという意味かもしれませんが、私は信仰をもつ者として、沖縄をローマ字Iに直し、O-KI-NA-WAの意味を次のように考えてみました。「O」は王様です。「NA」はナザレで、「KI」はキリストです。そして、「WA」は私たちです。すると、「O-KI-NA-WA」とは「ナザレのキリストは私たちの王様」ということになります。

ポンテイオ・ピラトは十字架の上に「INRI」と書きましたが、ボスコ神父は「OKNW」（OKINAWA）と書いたほうがいいと思っています。なぜなら、ユダヤ人は「ナザレのキリストはユダヤの王」を受け入れませんでしたが、私たち信者は「ナザレのキリストは私たちの王」を受け入れるからです。

神は「ナザレのキリスト」のことをこうも言われました。「これはわたしの愛する子。これに聞け」（マルコ九・7）と。だからこそ、親愛なる皆様、「天には神に栄光」を願って、私たちの王様、ナザレのキリストに聞く者になりましょう。また、「地には人に平和」を願って、神の愛する子になりましょう。そして、皆が、私たちの王様、ナザレのキリストと一緒に楽園にいる者となりますように。

たて軸よこ軸

幼子のように

開南教会　ルチア　檜山　博子

昨年の降誕祭の頃、六十年前に幼児洗礼を授かった開南カトリック教会で、初孫を古川政孝神父様に祝福していただきました。孫を抱きながら、こんなにもか弱く泣くだけの無力な存在として、しかも貧しい馬小屋で、あのイエス様がお生まれになったという出来事にあらためて驚きと感謝を覚えます。信頼に満ちたまなざしで母親を見つめる孫娘の姿に、私も父である神様の愛に、全幅の信頼を寄せ、身を委ねているだろうかとはっとさせられたりします。

出産の無事を祈りながら参加した東京の黙想会で、「女性自立支援施設」で働く保育士の方にであいました。その方の施設で、隔週ですが私も夜間の見守りのお手伝いをすることになりました。その施設は困難な問題を抱えた妊婦さんをケアし、産前産後の自立支援をしているところです。利用する方の多くは、生育過程で自分自身が育てもらえなかった方や人として尊重されず心身共にきずついた女性たちです。

若すぎる方もいます。「親切にされると不安になる。親切にしてくる人はみんな後で自分を利用しようとする人ばかりだったから」とつぶやく声を耳にしました。「利用価値なんかなくても、あなたは十分に大切にされる価値のある人」と感じられる体験を味わって欲しいと思います。愛は人から人へと受け継がれていくのです。愛された記憶は、人に前に向く希望や活力を与えてくれるからです。赤ちゃんはたくさんの世話と愛が必要です。だからこそ、子育て最前線の母さんたちが孤立させられることなく元気であってほしい。そして生まれてくる子供たちを大切に育て、愛をそそいでほしいと願わずにはいられません。

子育ては心配の連続です。保育園に行くようになってからは心配で何も手につかず、マリア様にお守りくださいと祈ってから、やっと仕事を始めることができました。十八歳で子供が進学のために家を離れてからは、心配と寂しさで胸がつぶれるようでした。万葉集に遣唐使の母のこんな歌が残っています。

「旅人の宿りせん野に霜降らば吾が子はぐくめ天の鶴群（たづむら）」

いつの世も子を心配する親の思いはつきないのだと共感します。戦争未亡人で貧しい生活の中、五人の子供を育てた祖母は子育てに対して、「子どもに与えられている力を信じなさい。ナンクルナイサ」が口癖だったといいます。「自分でどうにもできないことは、神様にお任せしなさい」という意味だと私の母は解釈していました。人の親でさえこんなにも心を配るのですから、ましてや天の父が私たち一人一人を気にかけないはずはないでしょう。

私は母から国語教師の仕事とカトリックの信仰を受け継ぎました。「三役をこなして妻の高鼾」と父が川柳を詠んだほど、母は沖縄の長男嫁として、母親として、教師として多忙な毎日をたくましく過ごしていました。その母が認知症を患いました。日常のキラリと光る瞬間や感動を俳句や手紙で伝えてくれた母。書道をたしなみ、エッセイを書き、恩師や善き友や教え子との絆を大切にしていた母。

生きる支えとも矜持ともしていたはずの文字や言葉や記憶が次第に母から失われていきました。それでも子供が好きで、お正月に親戚の子どもたちが来ると、「お年玉あげよう」と追いかけ、幼稚園児に「もう三回目だよ」と断られる始末でした。

ぼけてますます、母の中の沖縄のおばあらしい「カメーカメー」攻撃技（何でもあげたがりの精神）は磨きがかかっています。

家族の顔もわからなくなり、母は施設に入りました。新型肺炎が流行し、目と鼻の先で暮らしながら会うことも困難になりました。そんな中、偶然にも病院への付き添いとして会えることになりました。今や母は穏やかに座っているだけで、私をいつも慰め励まし力づけてくれた言葉を聞く術はもうありません。触れ合うことができる機会すら限られているのだと思い、悲しみがこみ上げてきました。すると母は、私の目を見て子供のようなおどけた表情を作ったのです。知力も記憶も言葉も取り去られても、私の心を明るくしようとしてくれたのだと気づきました。

私たちは時に「他の人のように才能があったら」とか「もっと健康だったら」と自分を嘆き、何もしないことがあります。しかし、神様の恵みは私に十分なのです。神様の愛に気づき、その愛に応えようとするとき、何も持たないこんな私でも、命尽きるその時まで神様はきっと用いてくださるはずだ。

母は今もそう教えてくれているのだと思います。かつて与えられていたものにも固執せず、今与えられているものを精一杯活かして、神様と人とに仕えようと努めること、そんなところに老いの道を輝かせるヒントがあるのかもしれません。先のことはわからない。望みや弱さも打ち明けながら、「幼子のように」神様に信頼して身を委ねて生きたいと願います。

2022年12月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時：2022年12月5日（月） 10:30～12:00
会議の前にフランシス神父の司式で聖体賛美式が行われた。

1.報告及び連絡事項：司会はヨアキム神父が担当。

・前回（11月会議）は司祭研修会のため休会となり、会議の報告はなく、10月8～9日の2日間行われた研修会の報告が津波古事務局長から行われた。ウェイン司教からも総括と意見聴取が行われ、研修会があることは有意義であるとの意見が多く寄せられた。

・10/28～29日に行なわれた長崎教会管区司教団の集いについて、ウェイン司教から報告が行われた。司教たちのフリートーキングで、お互いの意見を分かち合った。大分、鹿児島、那覇の三教区で行っている合同黙想会も、継続する方向で話し合いがなされ、来年6月に那覇教区主催で行うことも確認された。また、神学生の人数が少なくなっている神学校の存続等についても、話し合いが行われたとの報告がなされた。

・新しいミサ式次第の実施状況についてウェイン司教から司祭たちへの聴取が行われ、1，2，3，と3つの応答が用意されている箇所については、しばらくは1，を使って統一されるよう要請があった。

・12月18日に行われる青少年のクリスマス会について、担当のナビーン神父から報告が行われた。普天間教会で18日の午後2時から行う予定で、プログラム等を各小教区に届けてあるので、12月12日（月）までに参加人数の報告をお願いしたい旨要請があった。

・クリスマスを控え、カリタス那覇では市民団体を通して、子ども支援に取り組んでいく予定で準備を進めているので、司祭たちを通して各小教区へも協力を要請していく旨報告が行なわれた。

2. 審議事項

・ウェイン司教から2023年の「教区目標」が提示され、司祭たちに感想が求められた。「われら皆、和解の器、平和の担い手」とすることで、了承された。

その他

・首里教会のボスコ神父の休暇が、航空運行の都合で1/4～2/10の期間に変更されることが報告された。

・クレバー神父から申し送りがあり、12月11日午後5時から首里教会で、キリスト教諸派による県民クリスマス会が催されるので、たくさんの方々の参加を乞う旨、呼びかけが行われた。

・福岡大神学校の司教・養成・召命担当者合同会議について、教区の召命担当者として参加したマイケル神父から報告があり、2月と5月にも同大神学校の運営や存続について、継続して話し合いが行われるので、お祈りくださいとの要請が行われた。

・2月11日の「教区の日」について、安里教会主任のフランシス神父を中心に教区司祭団で準備していくことが確認された。

・2023年6月に行われる予定の3教区合同黙想会については泡瀬教会主任のブイ神父を中心に、教区司祭団が協力して、準備を進めていくことが確認された。

・6・23沖縄慰霊の日に行ってきた「平和巡礼」について、教区平和委員会は「魂魄の塔」での祈りの集いを担当し、早朝ミサと平和行進については、小禄教会主任のマキシム神父と、普天間教会のナビーン神父が中心になって準備することが確認された。

・ウェイン司教から、大陸別シノドスについて、担当の菊地大司教からアンケートが届いており、回答は自由であるが、教区でどう取り扱っていくかを検討していることが報告された。

・降誕祭と年末年始の司教ミサの予定について、マーシーさんから報告があった。
12/11,具志川教会。12/18,青少年クリスマス会。12/24,開南教会。12/25,1/1,安里教会。1/8,コザ教会公式訪問。

・津波古事務局長からスピリチュアルレポートについて要請が行われた。2022年1月1日から2022年12月31日までの現況報告を、2023年1月27日までに教区事務所へ、主任司祭が取りまとめて提出することや、作成における注意点が説明された。

・次回司祭助祭拡大会議は1/10（火）に行うことが報告された。

2022年12月12日　承認：ウェイン・フランシス・バーント司教　記録：新田　選

教区NEWS教会

カリタス那覇の子ども支援活動

去る十二月十日（土）の午後、安里一区公民館で行なわれた「ゆいまーるの会」主催による食料品の無料提供会に参加してきました。カリタス那覇からはマーシーさん、Sr.アイビー、Sr.メリージョイ、井手の四名で、増田さんの手作りのクッキーとエベリンさんの手作クリスマスカードが入った詰め合わせを七十袋準備し提供しました。

一時四十五分に安里一区公民館に到着すると、既にお米やスーパーからの食料品の寄付が到着していました。「ゆいまーるの会」嘉手苅さんの指示のもと、カリタスの四名とスタッフ五名で袋詰めや食品を並べると、配布は二時三十分から約一時間かけて、三十二組の親子、合計五十名の人に食料が配られました。

食料を受け取る方の中には外国出身者もおり、多様な人々がこの活動を必要としていることがわかりました。また、受け取る皆さんの喜ぶ姿を見るとこの活動の大切さを感じるとともに、カリタス那覇としても、今後もこれらの活動を継続させ、内容も充実させていきたいと感じました。

（カリタス那覇　井手一宏）

愛楽園教会司教訪問

聖フランシスコ・ザビエルを保護の聖人にいただく愛楽園教会では、聖人の祝日に当たる十二月三日前後に教区司教をお迎えして感謝のミサが捧げられている。今年もウェイン司教と名護教会主任のマイケル神父、そして名護教会の信徒たちが集って、愛楽園信徒と一緒にミサが捧げられた。

那覇教区 青少年クリスマス会

十二月十八日、普天間教会で青少年クリスマス会が行われた。たくさんの子どもたちが参加し、共にミサに与り、ゲームや舞台を楽しんだ。

NPO法人ぶどう園の会

訪問看護ステーション クララ

TEL&FAX:098-937-5001
住所　沖縄市泡瀬2丁目37-15
・基本受付　月曜日～金曜日(申込、相談など)
・営業時間　8:30～17:30
・営 業 日　24時間365日(緊急対応含む)

訃報

◆首里教会
セシリア　新城　喜陽子　様
二〇二二年十二月十日帰天
享年八十八歳

イシドロ　島袋　伸三　様
二〇二二年十二月二十一日帰天
享年八十五歳

◆名護教会
フランシスコ・ザビエル
與那嶺　幸司　様
二〇二二年十二月十一日帰天
享年五十二歳

◆泡瀬教会
リカルド　知名　光雄　様
二〇二二年十二月十四日帰天
享年八十九歳

葬祭の「やすらい企画」

私たちは故人とご遺族の意向を最優先に考えます。何でもご相談下さい。

那覇市首里鳥堀町4-57-3
TEL&FAX:098-885-8205
http://w1.nirai.ne.jp/yasurai
E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

24時間受付

～ご遺族の心をもって奉仕する～

葬典社（そうてんしゃ）

＊創業30数余年・・・。
＊皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。
＊ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。

「ゆうなの会」会員募集中です。

（実務担当）比嘉（ひが）　高茂（たかしげ）

24時間受付

☎098-853-1059（てんごく）

終生誓願式のお知らせ

このたび、主の限りない慈しみと、皆様のお祈りに支えられて、４名の姉妹が終生誓願を立てることになりました。これまで、那覇教区の行事、小教区への奉仕を通して、姉妹を豊かに育んでくださった教区の皆様に心より感謝申し上げます。終生誓願式には、信徒の皆様にもご参列いただき、共に祈り、感謝と喜びを分かち合っていただきたいところですが、コロナ禍中にあり、一堂教区の日に集うことは困難ですので、列席はお控え下さい。各小教区で、心を合わせて感謝の祈りを捧げて下さいますことを謹んでお願い申し上げます。

誓願式のミサは、司教様を始め、司祭団、立誓願者の家族、修道家族の親しい方のみで執り行います。なにとぞご理解を賜りますようお願い申し上げます。

2022 年 12 月吉日
聖マリアの汚れなき御心のフランシスコ姉妹会
会長　ガブリエラ　仲大底利子

記

日　時：2023 年 2 月 2 日（木）午後 3 時
場　所：カトリック与那原教会
司　式：ウェイン・フランシス・バーント司教
立願者：シスターアン グェン ティー キム ゴック
　　：シスターテレジア ホーティー トウェット ティン
　　：シスターマリア グェン ティーホン チン
　　：シスターベルナデッタ 仲谷 洋子

教区の日　記念ミサ・祝賀会

●日時　2023年2月11日（土）午後２時　●場所　カトリック安里教会

教区の日に当たり、節目の年を迎える方々のために感謝ミサを捧げ、祝賀会を行います。
大きな喜びのうちに、祈り、祝福し、教区誕生の日をお祝いましょう。
修道誓願や司祭叙階25･50周年記念と信徒の金婚式を祝う方があれば、１月18日までに
各主任司祭へ報告してくださるようお願いします。

カトリック那覇教区長　ウェイン・Ｆ・バーント司教

日本カトリック司教団

在留特別許可嘆願署名キャンペーン

2023年 1月末日まで

日本カトリック司教団は、2021年12月の難民移住移動者に関する研修会で、日本で生まれ育った、在留資格がなく強制送還の危機にさらされている外国ルーツの若者の証言を聞きました。働くことも、健康保険に入ることもできず、若くして道を閉ざされている子どもたちやその家族がいます。わたしたちは、このような子どもたちと家族に「在留特別許可」が与えられるよう要請書を出すことを、今年2022年の定例司教総会で決定し、3月25日付書簡を古川禎久法務大臣に提出しました。

日本の入管制度では、法務大臣の行政裁量で、非正規在留を合法化する「在留特別許可」を出すことができます。わたしたちは、道を閉ざされてしまっている兄弟姉妹たちに人道的な配慮を示すよう古川大臣に要請しました。日本の教会の皆さん、また思いを同じくする皆さんに賛同の署名を呼びかけます。